

JP-A-54-153944

1. Title of the Invention

Wind mill for wind force prime mover

2. Claim

A wind mill for a wind force prime mover, said wind mill being attached with blades each attached with a curvature (camber) respectively in parallel with each other by an angle of elevation of blade relative to an axle and radially centering on the axle.

AMENDMENT

2. Claim

A wind mill for a wind force prime mover characterized in that curved blades are attached between blade interposing base plates attached to an axle by an angle of elevation of 0° relative to the axle in parallel with each other and radially.

⑫公開特許公報(A)

昭54—153944

⑤Int. Cl.²
F 03 D 3/06識別記号 ⑥日本分類
52 D 1庁内整理番号
7018—3H

⑬公開 昭和54年(1979)12月4日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑭風力原動機用風車

⑰特 願 昭53—63567
⑱出 願 昭53(1978)5月25日⑲発 明 者 福本岩美
佐世保市鹿子前町1185番地
⑳出 願 人 福本岩美
佐世保市鹿子前町1185番地

明 細 書

1. 発明の名称 風力原動機用風車

2. 特許請求の範囲

湾曲(キャンバー)のついた翼をそれぞれ車軸に対して迎角0°で並列に、車軸を中心に放射状に取りつけた、風力原動機用風車。

3. 発明の詳細な説明

従来の風力原動機はプロペラ型式が多く、出力の割合に風車の直径が大きいために広い回転空間を必要とした、そのために風力が増加してくると回転の増加と強い遠心力が加わり、翼の故障が多く、さらに翼端がそれぞれ片側のみの固定なので風車に支障をきたす欠点があつた。

この発明は上記の欠点を改善するための風力原動機の風車に関するものである。

この風車の構成を図面について説明すると。

風車軸①を中心に回転する、翼固定板②及び③に片側に湾曲(キャンバー)のついた翼④をそれぞれ軸①に対して迎角0°で並列に固定することにより、回転空間を小さく、遠心力を減少させること

ができる。

又翼端を両端とも強固に固定することができるので、強風に強く支障なく安定した動力を得ることができる。

さらに翼の間を通過する風力で湾曲(キャンバー)側の方向にだけ回転する作用が働くので、どの方向より風が通過しても風向に関係なく無指向に動力を得ることができ、低風力で起動性もよく省資源(エネルギー)に役立てるものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は上部透視図で翼の状態が見えやすいように書いたものである。

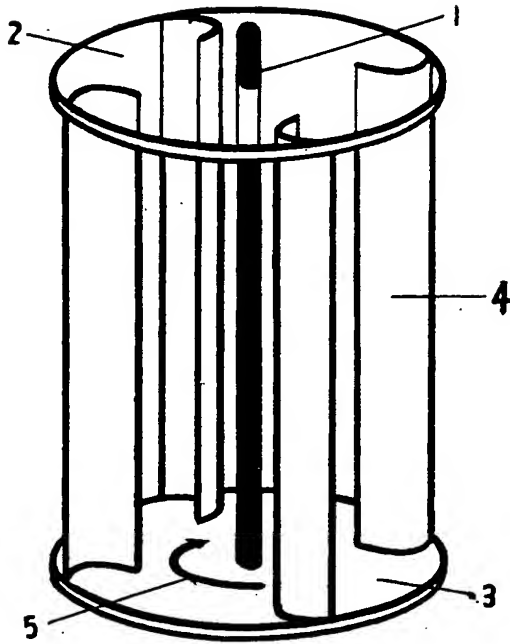
- ① 風 車 軸
- ② 上部翼固定板
- ③ 下部翼固定板
- ④ 翼
- ⑤ 回 転 方 向

特許出願人 福 本 岩 美

昭和54年5月21日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和53年特許願第063567号
2. 発明の名称 フラリオンダンドロ ユウフウリン
風力原動機用風車
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
住所(居所) 長崎県佐世保市鹿子前町1185番地
氏名(名称) 福本 岩 美 (印)
4. 補正命令の日 自発的補正
5. 補正の対象 明細書の特許請求の範囲の項
明細書の発明の詳細な説明の項
明細書の図面の簡単な説明の項
6. 補正の内容 別紙のとおり



明 細 書

1. 発明の名称 風力原動機用風車
2. 特許請求の範囲
車軸につけた翼固定板の間に、湾曲した翼を、
車軸に対して迎角 0° で、平行、放射状に取りつ
けたことを特徴とする、風力原動機用風車。
3. 発明の詳細な説明
この発明は風力原動機用風車の改良に関する。
従来の風力原動機用風車はプロペラ型式が多く
広い回転空間を必要とした、翼端が片側のみの取
りつけなので風力が増すと回転力のために強い遠
心力が加わり翼に支障をきたす欠点があった。
この発明は上記の欠点を改良するためのもので
強風に強く支障なく動力をうる、風力原動機用風
車を得ることを目的としている。
これを図面にもとづいて説明すると、車軸(1)の
上下に翼の長さに応じた間隔で円板状をした翼固
定板(2)(3)の中央部を固定し、長方形の長辺側へ湾
曲した翼(4)の両端を車軸(1)に対して迎角 0° で平
行、放射状に翼固定板(2)(3)の周辺部へ多数取りつ

けたもので、湾曲面は同一方向に向いている。

上記の構成によつてそれぞれの翼の両端を強固
に固定でき回転空間を小さくすることにより、強
風に支障なく安定した動力を得る効果がある。
さらに、風車を通過する風で湾曲面の方向にだけ
回転するので風向に関係なく無指向に動力を得る
利点もある、低風力で起動性もよく省エネルギー
に役立てるものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は上部透視図で翼の状態が見えやすいよう
に書いたものである。

- (1) 車 軸
- (2) 翼固定板
- (3) 翼固定板
- (4) 翼
- (5) 回転方向

特許出願人 福本 岩 美